

# 令和6年度 第2回 ふくしま元気トークまとめ



## 【開催概要】

|     |                                                                                                                                                                                                   |
|-----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 日時  | 令和6年11月24日(日)<br>午前10時30分～正午                                                                                                                                                                      |
| テーマ | 子育てするなら福島市 ～医療・保育の現場から～                                                                                                                                                                           |
| 場所  | 文化堂 Pentonote (ペントノート) 1階イベントスペース                                                                                                                                                                 |
| 出席者 | 病児病後児保育施設、産後ケア施設、特色ある幼児教育・保育プロジェクト実施施設、小児科医、児童発達支援センター職員 の皆さん<br>(1) 大内愛美さん (2) 伊藤佳代子さん (3) 小林麻里絵さん<br>(4) 小谷寿美恵さん (5) 石田登喜子さん (6) 木村恵美子さん<br>(7) 高木小百合さん (8) 市川陽子さん (9) 佐々木景さん<br>(福島市) 木幡浩 福島市長 |

## 【1 市長あいさつ】

今日はお集まりいただきましてありがとうございます。

ご承知の通り、少子化が一段と進んでいますが、やはり、子どもが多く笑顔溢れる社会、子育て世帯や子どもたちがここに住んでよかったと思ってもらえるような、そんなまちを目指して今取り組んでいます。

現場の皆さんから、どうすれば福島市の子育て政策がより良くなるのか、現場でのサービスがよりよいものになるのか、現場の皆さんにとってもより働きがいのあるものになるのかというような視点からお話をいただければと思います。



## 【2 主な発言内容】

### (1) 自己紹介、問題意識の共有

○大内愛美さん

- ・当園では今年4月に開所したばかりで、5月に病児病後児保育を始めました。今登録している方が30人ぐらいいます。利用は月に大体2～3人ぐらいで、これまでのところ15人ぐらいの方が利用しています。保育園の園児が主ですが、徐々に外部の方も増えてきています。ただ、現在看護師が私1人しかおらず、医師が常駐しているわけでもないので、特に外部の方の病児病後児保育を受け入れたときに、体調が急変したときの対応にはすごく不安なところがあります。

○伊藤佳代子さん

- ・当園は、2018年の開園当初から病児病後児保育も併設しています。初めのうちは給食の食事も提供していましたが、離乳食の状態、アレルギー、ミルクの量の確認など、受け付けの時にとても時間がかかっていました。そこを改善し、アレルギーのお子さんの命を守るため、今は離乳食の方は家から持ってきていただく形に変更し、普通食のお子さんには園で作ったお腹にやさしい食事を提供しています。

- ・当園では一時保育も行っていました。職員が欠けてしまい今現在はできていません。一時保育利用したいという電話はたくさんあるけれども、職員不足で対応できないというのが今の課題です。また、保育士が入ってきたとしても長く続かない。うちの園は職員の平均年齢が高く、年配の先生たちで頑張るしかないという現状です。保育の質を高めるためには職員が潤ってこないことには難しいため、保育士育成の方にも視点を向ける必要があるなというふうにも思っています。

#### ○小林麻里絵さん

- ・当施設は今年5月に開院したふくしまパンダ小児科に併設していて、現在1日4人のお子さんを預かっています。始めたばかりの頃は病児病後児保育のことを知らないばかりでしたが、保育士さんがチラシを作ってこういうことをやっていると、パンダ小児科で一人ひとりに声掛けをするなど宣伝などをして、少しずつ利用者の方が増えてきました。
- ・現在登録者が290人に達していて、インターネットで予約登録、予約受け付けをしています。保護者の方からは、仕事が休めなくて困っているのでも助かりましたというお声をたくさんいただいていますので、今後も保護者の方の子育て支援のサポートとして助けたいと思っています。

#### ○小谷寿美恵さん

- ・助産師会は、全員が助産師の国家資格を持った職能団体です。令和5年度の県の委託事業として「福島の赤ちゃん電話健康相談」が1138件ありましたが、このうち32.3%が福島市からの相談でした。また、産前産後の家庭訪問も行っていますが、延べ659件のうち105件が福島市での家庭訪問でした。拠点が福島市にあるということと、福島市のこども家庭課などで、ご案内していただいていることもあって、たくさんご利用いただいているのかなと思っています。
- ・福島市内には福島助産所とゆりかご助産院の2カ所の助産所があり、産後日帰りケアを実施しています。お母さんたちが元気でないと、赤ちゃんが健全に育たないという思いがあり、特にお母さんたちの悩みに寄り添って対応していきたいとサポートしています。
- ・今年からは、福島生徒健康の相談センター業務を始めました。やはり子どもを産んでもらえないと子育てはスタートしないので、やはり、そういったお子さん、出産をしたいと思う方もサポートできるような体制作りが今年度始まっているというような状況です。

#### ○石田登喜子さん

- ・大病院などで教員や臨床をやっていましたが、震災直後にリタイアして、被災したお母さん方や赤ちゃんを何とかしたいと思って地域に出してみました。その中で、被災してもしなくても、とにかくお母さん方は支援を求めているということに気づきました。訪問とかをやっていたのですが、その後、産後ケア施設を立ち上げて被災したお母さん方お預かりして、産後ケアを始めました。その中で気づいたのが、お母さん方の育児力や、それを支えるおじいちゃん・おばあちゃんの育児力や支援力が弱まっていることでした。そして、赤ちゃんを健全に育てていくためには、まずお母さんが落ち着かなくちゃ、安心しなきゃいけないということで事業を拡大してきました。
- ・最近の活動では、妊娠中から子育てのイメージ作りが必要と考えて、プレママ、プレパパ講座に力を入れています。毎月20組ぐらいのカップルに参加いただいています。さらに、必要と思っているのはお父さんへの支援です。育児休業を積極的に取るようになり、育児参加が増えていますが、今お父さんの鬱が多くなってきています。子育てをするということは、まず赤ちゃんの支援も大事ですが、お母さんの支援、そしてお父さんへの支援、おじいちゃん・おばあちゃんの支援も含めて丸抱えなんだと思います。WHOの健康の概念では、身体的健康、精神的健康、社会的健康が安寧な状態と言っています。赤ちゃんが満たされお母さんが満たされる。そのためにお父さんがどうしたらいいのか、おじいちゃん・おばあちゃんがどうしたらいいのかという家族を作る支援、そういう役割を果たしていかなければと思っています。

#### ○木村恵美子さん

- ・当園は、2020年に新園舎を造って、幼稚園型認定子ども園に移行しました。その敷地造成のときに出てきた30センチぐらいの石ころを何とか子供たちの遊びものにしてあげられないかっていうことと、敷地の一部がその昔荒川だったということで、日本一の荒川が幼稚園を流れたらすごく素敵じゃないかっていうところからプロジェクトをスタートし、ビオトープを作りました。その後、綺麗な荒川を守っていきたい、幼稚園にも綺麗な水を流したいということで、特色ある幼児教育・保育プロジェクトに参加しました。
- ・子どもたちは地域の方に理解をいただきながら遠くまで散歩に出かけるんですが、その度にゴミ袋を持ち歩きゴミ拾いも始めました。小さいうちからこういうことを子どもたちに伝えていけば、きっとこの子たちが大きくなったら、もっともっと福島市のゴミを減らすことが出来るんじゃないか、もう少しいろんなものを大切に使えるんじゃないか、水の使い方もっと学ばないかということで、うちの幼稚園だけではなく地域の方、そして市民の方にも子どもたちの取り組みを伝えていきたいなと思っています。また、地域の方と繋がっていくために、今後もいろんなプロジェクトや取り組みを進めていきたいなと思っています。

#### ○高木小百合さん

- ・当園は、特色ある幼児教育・保育プロジェクトに和太鼓の取り組みに参加して、今年で4年目になります。大正8年創立というすごく歴史のある保育園ですが、よく言えば歴史がある、悪く言うと昔ながらというか、外部に発信していく力が弱いかなと思います。皆さんSNSとか凄く活用されていると思いますが、保育園全体として外部にアピールするのがちょっと苦手でもあったんです。でも、このプロジェクトに参加したことで、園の名前を凄くアピールしやすくなったと実感しています。入所見学の際も、「ホームページ見ました」とか、情報を見ていらっしゃる方も増えています。
- ・これまで園の活動を外部の方に知らせる機会は少なかったし、私たちもちょっと苦手な分野でしたが、いろいろとPRが出来るようになってきて、とても意義のある良い経験だなと思っているので、今後も続けていきたいなと思っています。

#### ○市川陽子さん

- ・福島市の医師会の会員として、小児科医としてやっていることは、小児医療を何としても守ろうということなんです。夜間は365日夜の7時から10時まで小児医療がある。それから、1年間の全ての日曜・祝日に休日当番医を内科系、外科系などの他に小児科もやっている。これは人口がたかだか30万人に満たない規模のそんなに大きくない街としては全国的にも多分かなり珍しいはずなんです。県外から福島市に転居してきた方でも、こういうサービスあるのは知らなかったとおっしゃるので、実は福島市民が当たり前のように思っている小児医療は、福島市の支援のもと、何とか続けていけている状況です。
- ・日本医師会の理事という立場においては、任期2年間の間に、県庁所在地の福島市の医療の状況を、ちょっとした自慢や大変なことも含めて話してこようと思っています。

#### ○佐々木景さん

- ・当園は0歳から小学校に上がる前までのお子さんの発達に気になるお子さんが通っている施設で、親子通園室と単独通園室という2つの部門で療育をしています。その他、保健福祉センターで発達相談会や、ネットワーク会議という幼稚園・保育園の先生方との研修会を進めています。
- ・その中で感じることは、1つは地域社会の中での子育ての支援です。今の保護者は少子化や核家族化を背景に、育児のイメージを持たずに親になったため、混乱や不安を抱えやすくなっています。また、ネット上に情報が溢れる一方で、コミュニケーション不足から情報の選択能力が低下し、自身の得た情報通りに子どもが育たないと感じています。このような状況では、SOSをネットに求める傾向があり、適切なサポートが得られずに育児がストップしてしまうケースも多いです。さらに、今の地域社会は昔ほど機能していないと感じられます。かつては地域住民同士で子育て支援が行われていたのに対し、現在はその繋がりが薄れてしまっているので、やはり地域社会の再生ということも考えなくてはならないとすごく思います。

- ・もう1つは連携をとって福島市の子育てを支えるということです。やはり発達が気になる子どもたちはたくさんの機関の連携が必要だと思っています。医療機関、保健機関、教育機関、それぞれがお子さんや、家族に必要な支援が行き届くように、連携体制をさらに深めていかなければいけないんじゃないかと思います。



**市長** ○パンダ小児科さんは私も開設前に伺わせてもらいました。ネットを活用してやられていて、使える人、使えない人いるんですけども、これは1つの大きな解決策だと思います。

○子どもたちも、小さい頃から当たり前が違くと全然違うんですね。ごみの分別なども、小さい時からの意識のレベルとか常識を上げると全然違うんだらうなと思います。

○福島市は小児医療結構手厚いんですけど、それが当たり前になっちゃっているからアピールが下手なんです。だから、もっと特に移住や定住などの面でもアピールするべきだと思います。

○地域社会もこれまでの感覚でやっている方々が多いので、そこを再構築していかなければと思っています。

## (2) 参加者の皆さんからの提言など

### ○伊藤佳代子さん

- ・病児病後児保育では、利用時間が午前8時から午後5時までですが、長時間のお預かりが子どもの回復にどのように影響するかについては課題があります。
- ・在園児は普段慣れている先生たちと過ごすため安心感がありますが、外部のお子さんを預かるときの過ごし方について皆さんはどのようにされているかお伺いしたいです。

### ○小林麻里絵さん

- ・ほっこりパンダっ子は保育園ではないので、毎日違うお子さんが来て、保護者の方とお話して状況を確認して受け入れをしています。一日中泣いているお子さんもいれば、楽しく遊んで帰ってまた来たと言ってくれるお子さんもいます。5月から始めたばかりなので、もう少し子どもさんが安心して過ごせるような環境づくりという点は、今後も課題になると思います。
- ・うちで取り入れている『預かる子ちゃん』という登録制度があるんですけど、それを今後市やっただけなのであれば、アイグランさんやみらい夢さん、今後新しくできる施設などで活用して全員で情報を共有することができ、保護者のニーズもより高まるのかなと思っています。
- ・将来的には、事前にオンライン診療をして、朝のお預かりを早めに行えるようなシステムができれば、保護者のニーズは高まっていくのかなと感じています。

### ○伊藤佳代子さん

- ・オンライン診療は利用の際スムーズにいく面がある一方、子どもの精神面については気になることがあります。お子さんの命を預かる側としては、空いていればそこに預ければいいやという簡単なものではないという思いもあります。

- ・仕事を休めないお母さんやお父さんを支援したい気持ちは一番にありますが、子どもたちの心のケアを大事にしたいという気持ちも大きくあります。かかりつけの先生からの「今日はおうちで休みなさい」という助言などは、子どもや保護者にとって安心材料となります。ですから、診療情報提供書を発行する先生には、そのへんも考慮していただいて、病児病後児保育の利用を進めていただけたらと思います。

#### ○石田登喜子さん

- ・「助産師の支援があったらな」という人や団体があったら、紹介をしてもらえるような形を作っているだけで必要があるなと思っています。福島市内にもホームスタートふくしま、こども緊急サポートふくしま、ファミリーサポートセンターといろんな団体がありますが、一度集まる場を作っていただいで、私たちの活動も知ってもらい、みんなの活動も知って利用し合える、紹介し合える、そういう場が1回あったらいいなというのが嬉しいです。

#### ○小谷寿美恵さん

- ・福島市はもっとアピールした方がいいと思います。子育てしている若い世代の方も実は恵まれていて、他の市などではこうはいかないんだってところを、ぜひ知ってもらうことが大事なんじゃないかと思いました。

#### ○木村恵美子さん

- ・うちの幼稚園は、西地区の拠点になりたいと思っています。園舎は吾妻山の噴火を想定して建築しています。そして、地域の方々が避難できるように備蓄も行っています。さらに、地域との繋がりを強めるため、西地区の皆さんと協力し、高齢者の方々に幼稚園を見ていただく機会を設けたり、一緒に豚汁を作ったり、伝承遊びを教わるイベントを予定しています。こういった特色を今後も活かしていきたいと思っています。
- ・また、引っ越してきた親が孤立しないよう、地域と保護者が繋がっていければ、もっと住みやすい福島市になるんじゃないかと思っています。

#### ○高木小百合さん

- ・最近、個別の支援が必要なお子さんが凄く増えていると思います。それに伴って職員、保育士が足りていないかなと感じています。募集してきてくれるのは短いパートタイムの方や、資格を持たない保育補助の方で、正規のフルタイムで働いてくれる方っていうのはなかなか見つからないです。また、若い世代の保育士さんがあまり入ってこないのも、若い世代が育っていかないという悩みは抱えています。

#### ○市川陽子さん

- ・助産師さんでなければ分からないこともあると思うので、市の保健師さんたちの訪問と、県の組織である助産師会の連携がよりうまく取れていければ、産後も含めたお母さんの支援により繋がるし、そこにはやはり小児科医も入らないといけないと思うので、私たち医師会側としても課題として持ち帰りたいと思います。
- ・離乳食の進め方の相談会ですけど、コロナになってからオンラインなんです。1回あたり10組程度なので、離乳食の進め方っていうのを親子教室も含め、もう少し力を入れてやっていただければいいのかなと思います。
- ・お父さんの育児休暇が最近増えてきましたが、小中学校から家事全般の教育もこれから先は必要になると思いますので、そのあたりの啓発もやっていただければありがたいと思います。

#### ○佐々木景さん

- ・このような会を設けて、福島市内のいろいろな機関の方が集まって、互いを知って、情報を共有して、必要な支援を必要とする人に届けられるようにしていけたらいいなと思いました。
- ・障がいを持っていると、まだまだ差別が多いと感じます。日本の社会は、まだまだ普通という言葉で括られていて、一人一人の違いを互いに認め合うという状況にはまだまだだなあと思います。保育、教育、地域の中で、一人一人が大切にされることを、住民一人一人がもっと意識できたらいいなと思います。



- 市長**
- 病児病後児保育施設の利用状況も、利用者の立場からすると1つのシステムにして、一覧ですぐわかるようにすると相互利用が可能になってくる。共通のものにしていけば、利用者の方はすごく楽になると思います。
  - 市でオンライン診療をやったときには、子育て世帯はほとんど抵抗なかったんです。最初にオンラインで受診すれば、小児科自体も混まなくて、そのまま病児病後児の施設に預けられますから、非常にいいシステムができるような気がします。
  - 何でもかんでも全部統一的にやらなければいけないということでもないのだと思います。心のケアを大切にしたいところは大切にやる形でやって、一部だけはそういう共通の方に参加するとか。そういった柔軟なやり方で徐々に知見を高めて、どこまでやれるのかと。やってみてここまでいけるというのだったら前に進めばいいと。経験の積み重ねをしていく必要があると思います。
  - どうしても役所の縦割りで、これまでは職員も自分の部署がやっている事業ばかりを広報するケースが多かった。今は、お母さん達が使えサービスという観点から、市がやってない事業であっても、できるだけ情報提供するように職員に言っています。ですから、LINEなんかでは、県の事業を市がいろいろ紹介している例も結構多くなっていると思います。
  - 市への保育士の応募は多いんです。そうした中で、市で採用にならなかった方には、「福島市内ではこんなに働く場所あって、皆さんを求めています」という案内を出すようにして、保育に関心のある方が市内の民間施設へ行ってもらえるような取り組みをやっていまして、よく連携をして市全体で人を確保できるようにしたいと思っています。
  - 特色ある幼児教育・保育プロジェクトについては、1回でも事業をやれば、取り組み施設一覧の中に入れて、大いにPRをしていきたいと思ひますし、市のイベントなどに参加できる機会を増やしていきたいと思ひます。
  - いろんな機関の連携の強化という点では、中核市は県からさまざまな権限が委譲され、県に関係なくできることがあるので、中核市としてのメリットをできるだけ出してやっていきたいと思ひます。
  - 離乳食教室は、ネットでないと見られない方もいると思うので、うまくそこは配慮しながらリアルと一緒に進めていけばいいのかなと思ひます。
  - 市役所でも男性の育児休暇取得を奨励していますが、例えばどういうことをやったのかとか、あるいはやる方針なのかみたいなことを調べたり、実態を見たりしながら、次にどのような手を打てるのか、考えてみたいと思ひます。
  - 障がいも1つの個性とか、人それぞれ違いがある中の一つだということは大事なことだと思ひます。福島市では総合計画の中に実は哲学を入れていて、その大事な哲学をちゃんと入れながら、事業の内容は状況に応じて変えていくということを重視しているんです。個性を活かした、福島らしさを活かした、新ステージの形成が一つ。それから、多様性の尊重、持続可能性、県都としての責務、そしてポストコロナというのを入れています。多様性というのは、市のいろんな事業でも尊重しているので、それが市民の皆さんにもっと浸透するようにしていきたいと思ひます。

### 【3 まとめ】

皆さんからの一番のご要請は、関係機関の連携ということだと思います。

今後そういう場を持って、皆さんからさまざまな形で意見を寄せていただいて、それをベースに我々も検討していきたいと思います。また、市からも「こちらはこう考えていますが、皆さんどうですか」と、どんどん仕掛けていきます。

福島市の子ども関係の施策がより良いものとなるように取り組んでいきますので、ぜひ皆さんにもこれからもご協力をお願い申し上げたいと思います。

今日は本当にありがとうございました。

